

学校再編整備計画案等について

(生野区役所)



令和5年6月30日(金)
勝山小学校区 保護者・地域説明会

学校配置の適正化が求められる背景

1. 児童の学習環境の観点

小規模校(11学級以下の小学校)の利点と課題

利点	<ul style="list-style-type: none">●学校としてまとまりやすい。<ul style="list-style-type: none">▶一人一人に目が行き届きやすい。●一人一人の学習状況を把握し、個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい。
課題	<ul style="list-style-type: none">●教育活動の幅が狭くなる。<ul style="list-style-type: none">▶音楽の合唱や、体育の集団競技などは困難な場合もある。●互いに切磋琢磨する機会が少なくなる。<ul style="list-style-type: none">▶運動会でのリレー、ドッジボール等の球技大会などにおいて、クラス対抗ができない。授業の中で多様な発言が引き出しにくくなる。●クラス替えができないことから、人間関係が固定化する傾向にある。●教職員数も少なくなり、学年運営に関して同学年担当教員による学年共通の指導方法の高め合いができない。

新たな学習指導要領の全面実施(R2)から

◆子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

◆何ができるようになるかを明確にした社会に開かれた教育課程の編制

子どもたちが多様な人間関係を構築する環境を意図的に創出
教科横断的なカリキュラムの検討や一部教科担任制の導入が可能な教職員組織の構築

学校配置の適正化が求められる背景

2 教職員組織面から

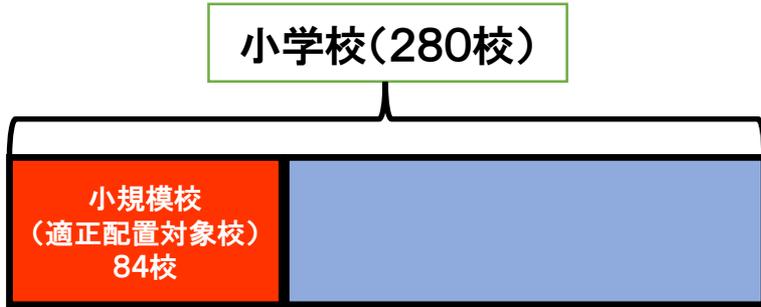


児童数の減少による小学校の小規模化

大阪市立小学校の児童数



大阪市立小学校の学校数



小学校の約3割が小規模校化
1割以上の学校が全学年単学級

全国的な教員不足の状況のもと、初任者を単学級に配置せざる負えない状況に・・・

各学年2学級以上の規模として、経験年数のバランスを考慮した教職員配置
初任者は経験ある教員と学年運営を担うことで、資質の向上を図る

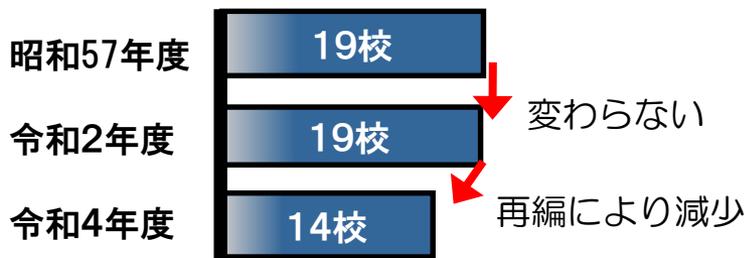
生野区の現状（児童数の減少による小学校の小規模化）

1 生野区全体の状況

生野区内の大阪市立小学校の児童数



生野区内の大阪市立小学校の学校数



小学校の小規模化が大阪市の平均よりさらに進行しています。

2 生野区西部地域の状況

生野区西部地域の大阪市立小学校の児童数

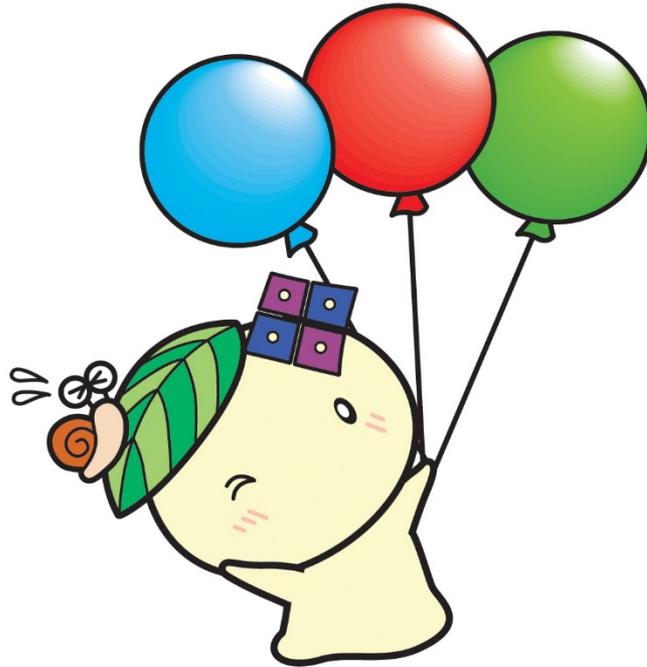


生野区西部地域の大阪市立小学校の学校数

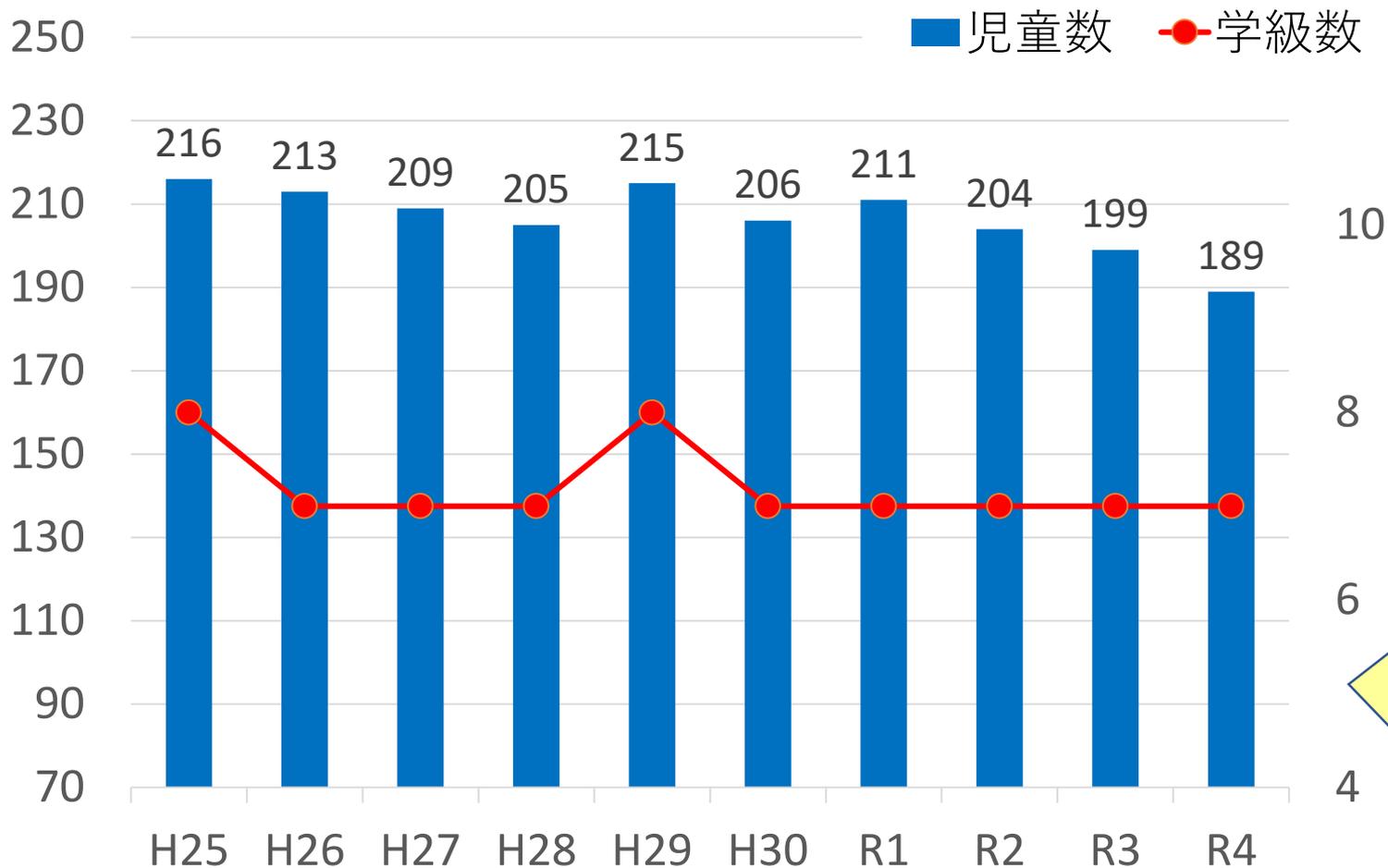


大阪市、生野区全体よりも児童数が減少しており、小学校の小規模化がさらに進行しています。

勝山小学校・東桃谷小学校の状況



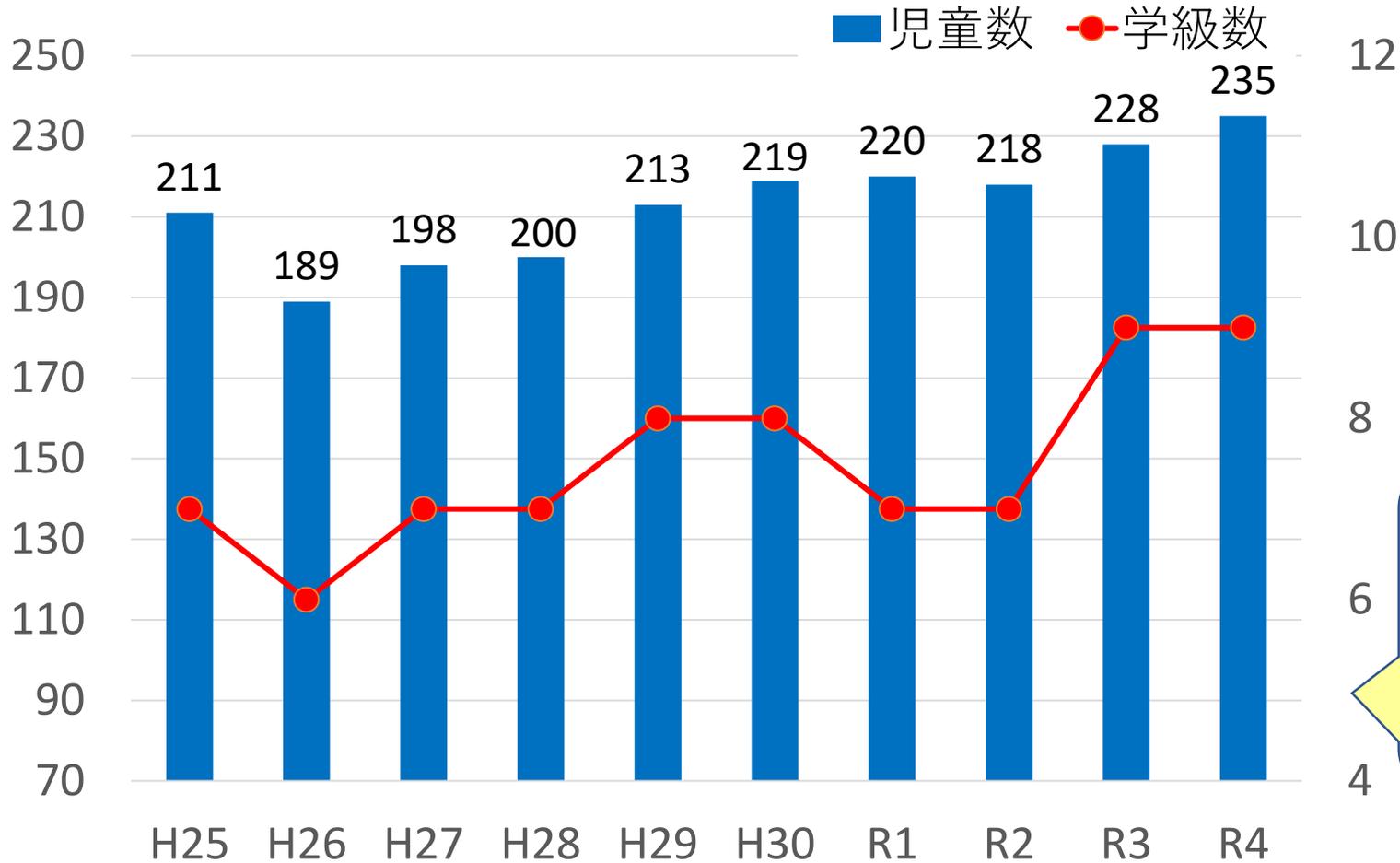
児童数の推移 ～勝山小学校～



今後も
200人前後
7学級前後の
状況が続く
見込み

※各年5月1日現在の児童数・学級数

児童数の推移 ～東桃谷小学校～



今後も
220人前後
8学級前後の
状況が続く
見込み

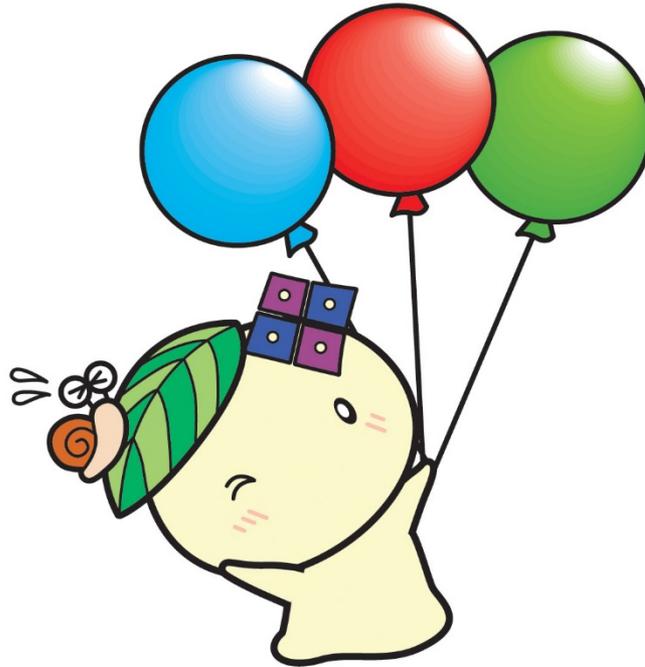
※各年5月1日現在の児童数・学級数

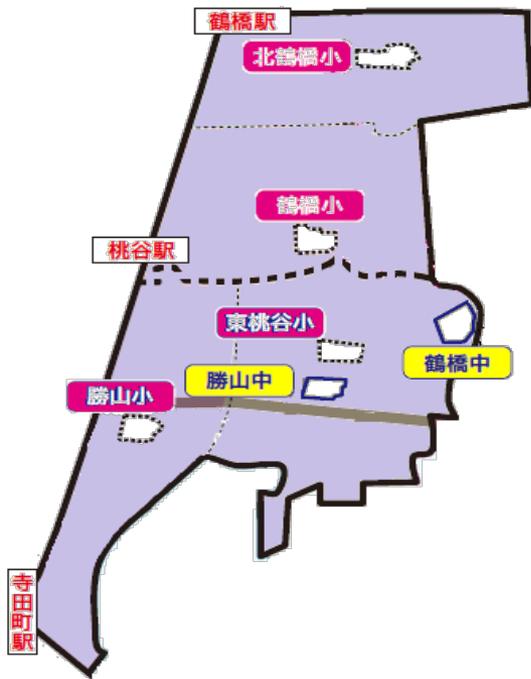
各小学校の児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
勝山小	26人	23人	33人	30人	29人	48人
	17 9	10 13	19 14	14 16	16 13	27 21
東桃谷小	47人	37人	33人	38人	36人	44人
	23 24	23 14	20 13	24 14	17 19	24 20

※令和4年5月1日現在の児童数
下段は、左が男子、右が女子

これまでの経過について





4小学校（2中学校）を同時に再編
※中学校はH31.4に再編

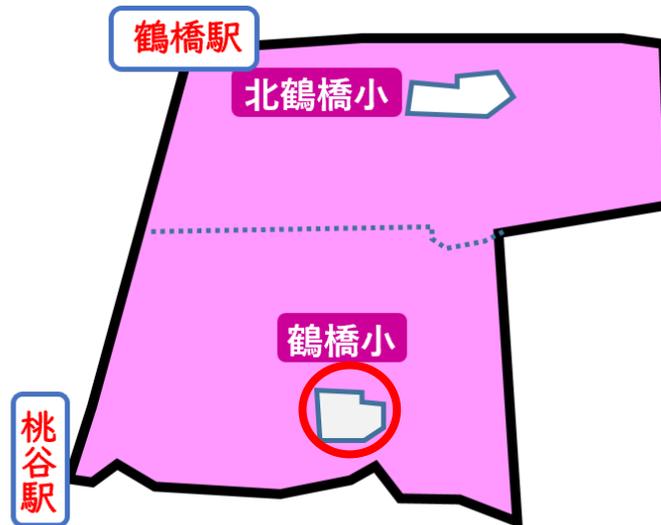
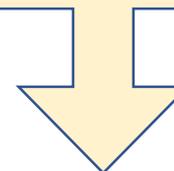
桃谷中学校

勝山中学校 鶴橋中学校

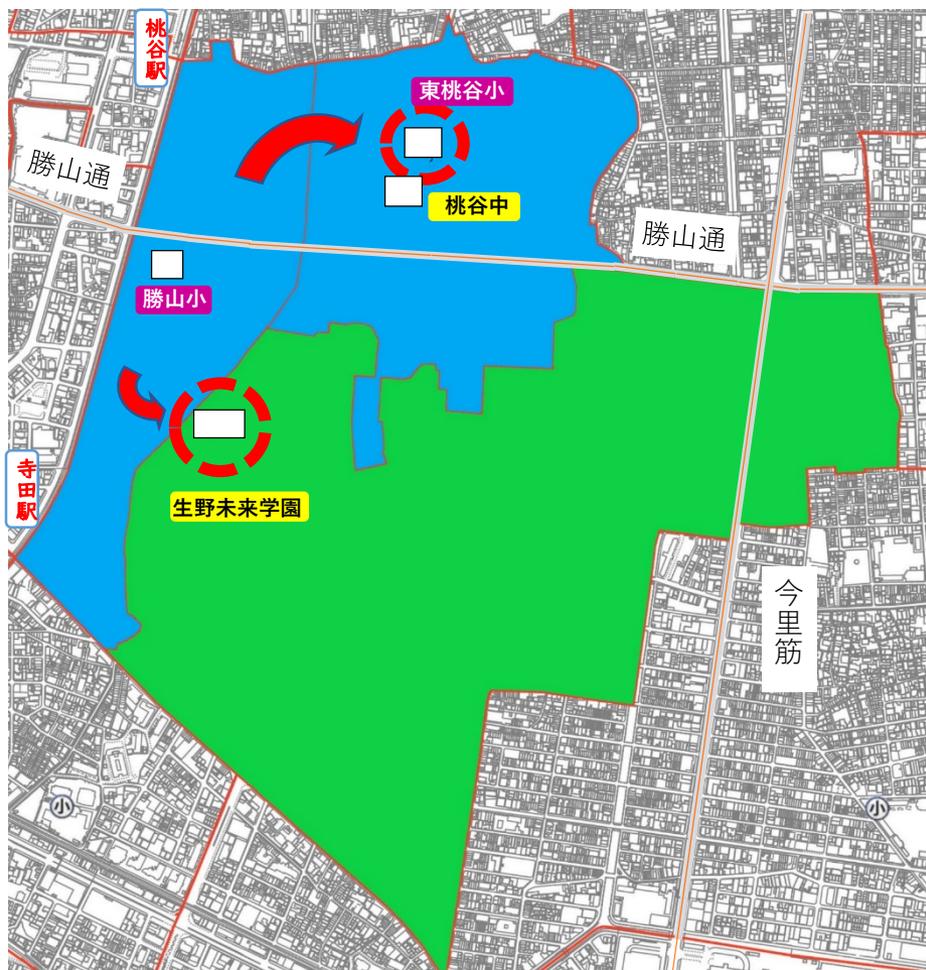
(仮称) A小学校

北鶴橋小学校 鶴橋小学校
東桃谷小学校 勝山小学校

北鶴橋小学校と鶴橋小学校を再編
新たな学校の場所：鶴橋小学校
時期：令和8年4月
R4.2「学校再編整備計画」策定



勝山小学校と東桃谷小学校の再編を検討



大阪市教育委員会の指針に基づき

東桃谷小学校の校地・校舎を活用

児童の登下校の負担・安全面を考慮して
現在の勝山小学校区のうち

生野未来学園に校区を変更する地域を検討

※変更する地域は中学校区も変更

勝山小学校区の児童数（区役所調べ）

令和4年5月現在

住所	未就学児							在校生							合計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
勝山北1丁目	7	12	14	16	18	16	83	8	10	17	14	10	20	79	162
勝山南1丁目	7	16	12	7	15	10	67	7	3	8	5	8	11	42	109
生野西1丁目	9	8	5	7	8	7	44	6	8	6	9	8	14	51	95
生野西2丁目	4	5	2	2	4	4	21	1	1	1	1	3	1	8	29
生野西4丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	27	41	33	32	45	37	215	22	22	32	29	29	46	180	395

注)在校生数には校区外の児童を含まない

話し合いの経過

- R4.6～ 勝山地域まちづくり協議会、勝山小PTAと意見交換
学校再編と併せて、校区変更も含めて検討することについて
意見交換を重ねました。

- R5.1 勝山小学校保護者説明会
校区変更する区域については、より多くの意見を聞くように
ご要望をいただきました。

- R5.2 校区変更に関するアンケートを実施
保護者説明会でのご要望を受け、勝山小学校区全保護者対象
にアンケートを実施しました。

校区変更する区域に関するアンケートの結果について

■ アンケート対象

- 勝山小学校在校生の保護者
- 勝山小学校区内にお住いの未就学児の保護者
- 対象世帯数計 254世帯（ただし、推定値）

■ 実施期間

- 令和5年2月3日（金）～令和5年2月13日（月）

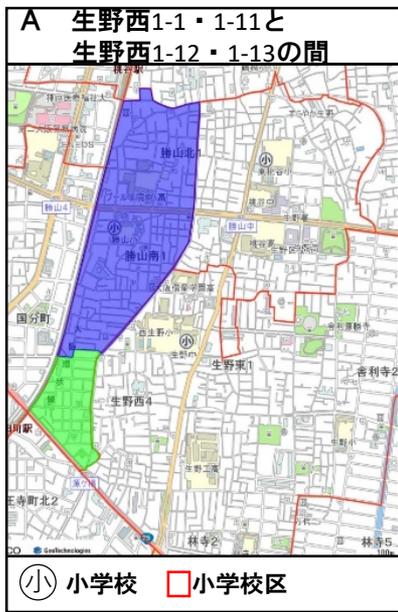
■ 実施方法

- アンケート用紙の配付及び行政オンラインシステム（行政OS）による実施
 - ・ 勝山小学校在校生の保護者：学校を通じて配布
 - ・ 勝山小学校区内にお住いの未就学児の保護者：各家庭へ郵送

■ 回答数等

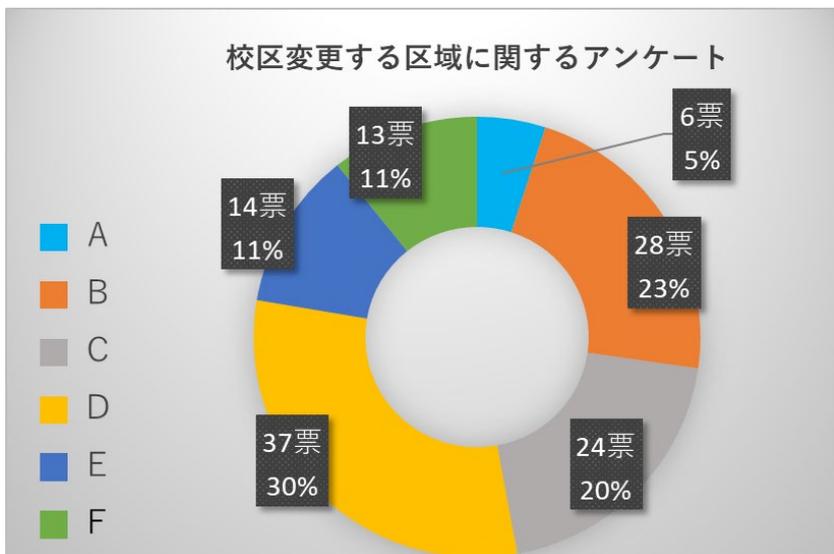
- 回答数：122
（うち、アンケート用紙による回答104、行政OSによる回答18）
- 回答率：48.0%（ただし、推定値）

■ 校区変更案 (A～F)



E : どこでもよい
F : その他

■ アンケート結果 (勝山小学校区全体)



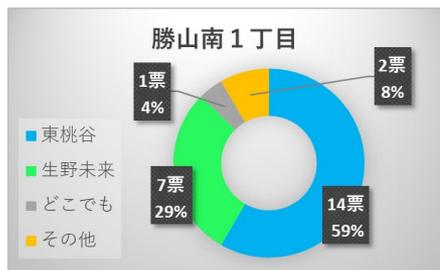
「F」その他のご意見

- AとBのどちらか
- BとCのどちらかが良い
- DもしくはAのどちらか
- BもしくはE 再編後数年は学校選択制の人数制限を設けないようにしてはどうか
- 再編時の在校生はD 再編時以降の新入生はCもしくは完全選択制
- Dを基本とするが、希望するものは生野未来学園へ通えるようにも配慮する
- 2～3年学校選択制の動向を見て地域の保護者の選択に準じればよいと思う
- 全員桃谷中学校へ入学を希望。希望者のみ未来学園への進学を許可すればよいと思う
- 中学校も選択制にするべき
- 在校生は選択制にしてほしい
- 勝山小のままがいい
- 勝山小学校を残してほしい
- 不同意

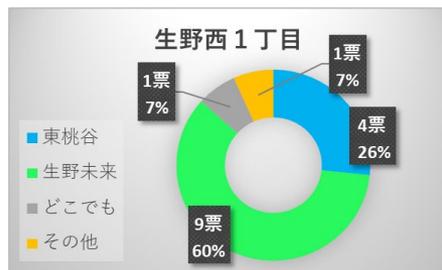
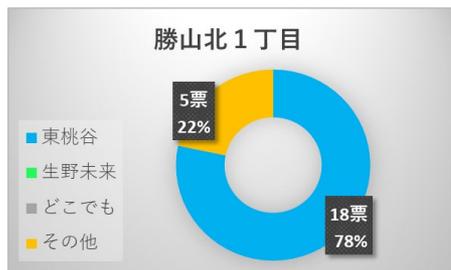
アンケート結果（地域別・年齢層別・再編後の校區別集計）

地域別でどちらの校区を選択されたかに着目して集計

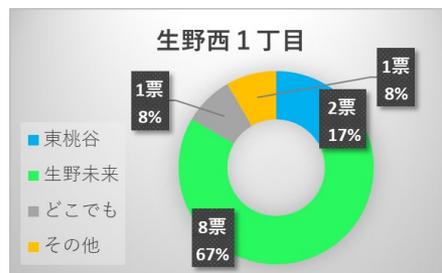
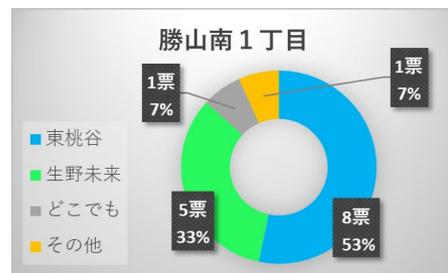
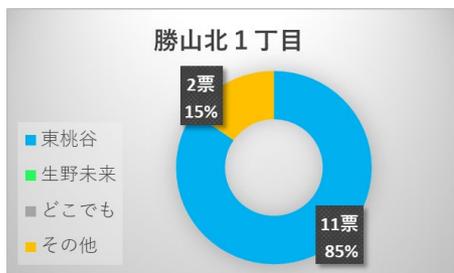
○ 2年生以下の児童がいる世帯 ※生野西4丁目は回答なし



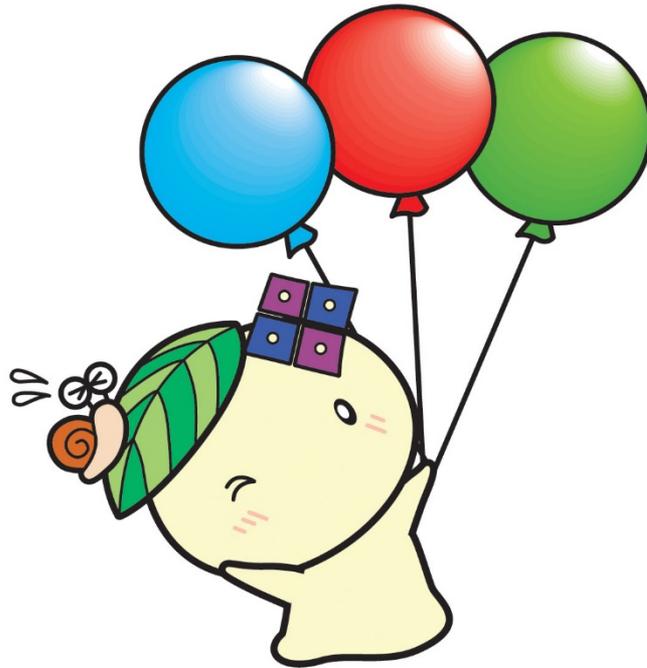
○ 2年生以下の児童がいる世帯のうち、未就学児がいる世帯 ※生野西4丁目は回答なし



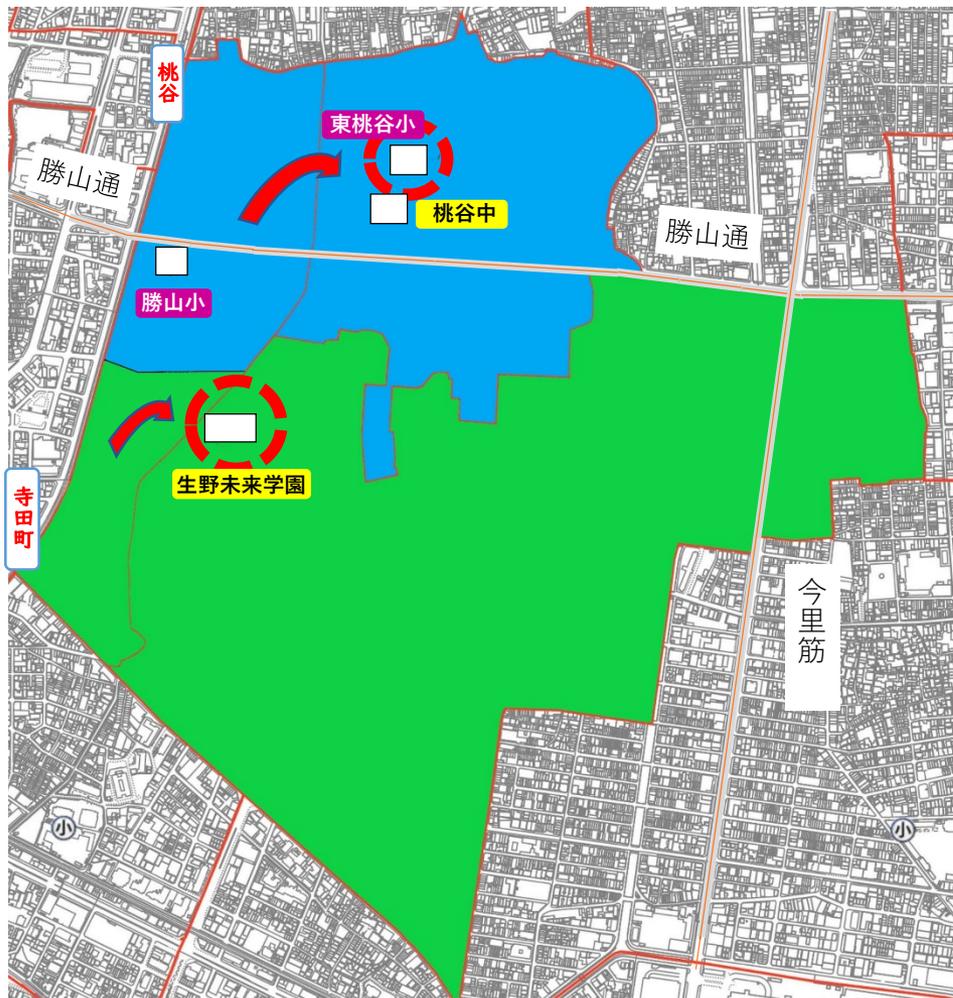
○ 未就学児のみ世帯 ※生野西4丁目は回答なし



学校再編整備計画案について



勝山小学校・東桃谷小学校学校再編整備計画（案）



■ 勝山小学校と東桃谷小学校を統合

ただし、勝山小学校の通学区域の一部（生野西1丁目、2丁目、4丁目14番）については生野未来学園の通学区域に変更
※桃谷中の通学区域の一部（生野西1丁目、2丁目、4丁目14番）も生野未来学園の通学区域に変更

■ 実施時期

令和8年4月

■ 学校施設の整備計画

東桃谷小学校の校地を活用し、既存施設の改造を行う

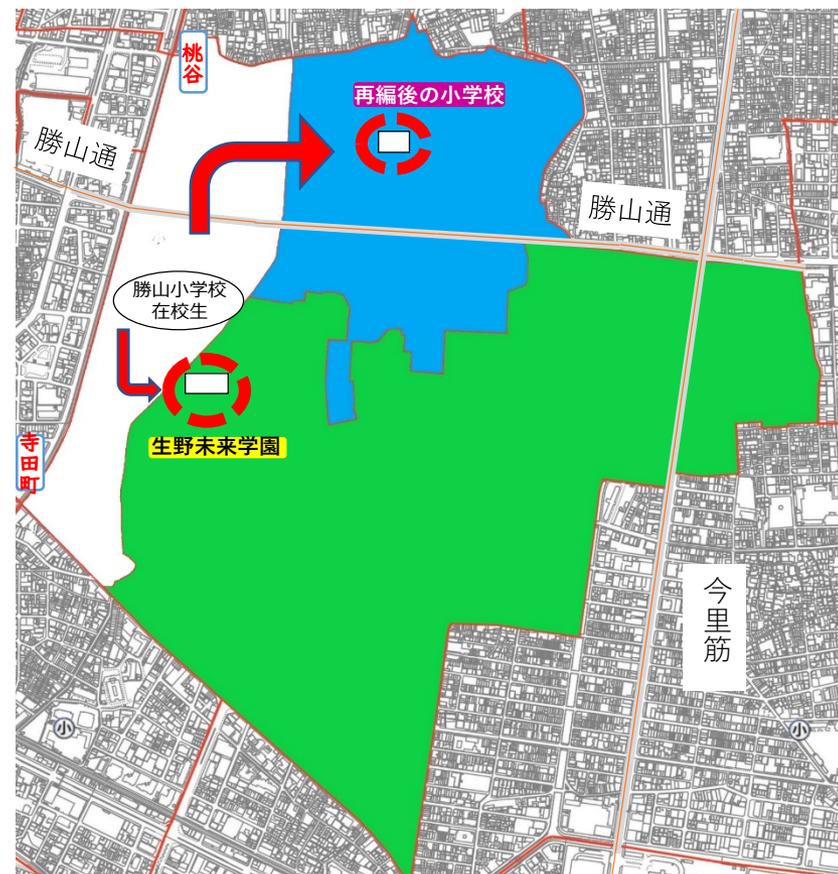
■ 通学路

別添のとおり

学校再編に伴う特例・経過措置①

■ 学校再編時の特例

- ・対象となる児童
再編時の勝山小学校の在校生
(再編時の新小学2年生～新小学6年生)
- ・内容
令和8年4月の再編時に限り、再編後の小学校または生野未来学園のどちらの学校でも選べます。



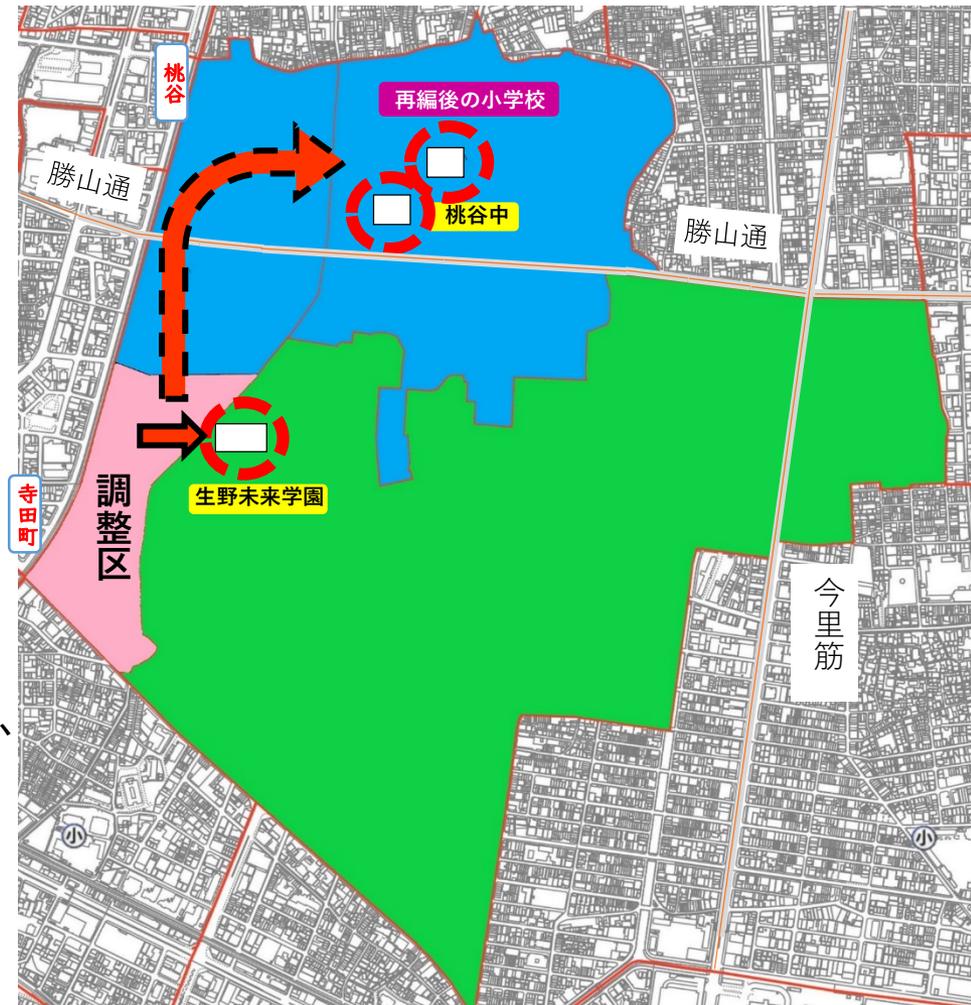
※再編時に桃谷中学校に在籍する新中学2年生、新中学3年生

勝山小学校の通学区域の変更に伴い、桃谷中学校の通学区域の一部（生野西1丁目、2丁目、4丁目14番）を生野未来学園の通学区域に変更しますが、再編時に桃谷中学校に在籍している生徒については、そのまま桃谷中学校に在籍します。

学校再編に伴う特例・経過措置②

■ 調整区域の設定

- 対象となる児童
生野西1丁目、2丁目、4丁目14番
にお住まいの児童
- 内容
生野西1丁目、2丁目、4丁目14番は
生野未来学園の校区としますが、
平成25年4月2日生まれから
令和8年4月1日生まれまでの方は、
新入学時に、
小学校は再編後の小学校と生野未来学園、
中学校は桃谷中学校と生野未来学園の
どちらでも入学することができるように
します。



勝山小学校・東桃谷小学校学校再編整備計画案の内容

■再編後の小学校の児童数見込み（R 8年度以降の児童数見込み）

	R 8		R 9		R 10	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6年生	50人	2	62人	2	54人	2
5年生	62人	2	54人	2	51人	2
4年生	54人	2	51人	2	46人	2
3年生	51人	2	46人	2	52人	2
2年生	46人	2	52人	2	46人	2
1年生	52人	2	46人	2	43人	2
合 計	315人	12	311人	12	292人	12

※R4.5.1現在の児童数・未就学児をもとに推計

勝山小学校・東桃谷小学校学校再編整備計画案の内容

■ 生野未来学園の児童数見込み（R 8年度以降の児童数見込み）

	R 8		R 9		R 10	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6年生	96人	3	103人	3	80人	3
5年生	103人	3	80人	3	109人	4
4年生	80人	3	109人	4	94人	3
3年生	109人	4	94人	3	87人	3
2年生	94人	3	87人	3	101人	3
1年生	87人	3	101人	3	97人	3
合 計	569人	19	574人	19	568人	19

※R4.5.1現在の児童数・未就学児をもとに推計

再編に向けたステップ

「大阪市立学校活性化条例」の手続きに沿って進めます。

区担当教育次長（区長）

「学校再編整備計画（案）」を作成

- 再編後の学校の場所
- 再編の実施時期
- 再編に必要な施設整備計画
- 再編後の通学路・安全対策 など



教育委員会

「学校再編整備計画（案）」を承認



学校再編整備計画



学校適正配置検討会議

メンバー：保護者、地域住民

学校再編整備計画

会議内容：学校名、校章、校歌、
標準服、通学路の安全対策
などについて



開校



再編スケジュール

R5年度

R6年度

R7年度

R8年度



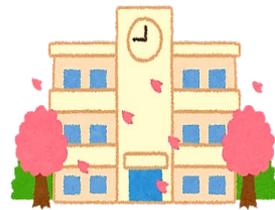
教育委員会



学校適正配置検討会議

- ・ 学校名
- ・ 校章
- ・ 校歌
- ・ 標準服
- ・ 通学路の安全対策 など

開校



学校施設
事前調査等

実施設計

教室改造
工事

よくある質問と回答の代表例

校区の見直しについて

Q：校区の見直しがあった場合、友達と離ればなれになってしまう可能性があります。今の在校生は再編時に東桃谷小や桃谷中に行けますか？

A：学校再編時に限って在校生はどちらの学校でも選べるような特例措置を設けます。

通学路安全対策

Q：新しい通学路の安全対策はどのように考えているのか。

A：通学路の安全対策については、学校適正配置検討会議において実現可能な対策などを検討し、本市関係部局や警察等の関係機関と連携しながら新たな学校の開校までに安全対策を行っていきます。

よくある質問と回答の代表例

標準服について

Q：標準服は変わりますか。変わる場合には買いかえる必要があるのか。

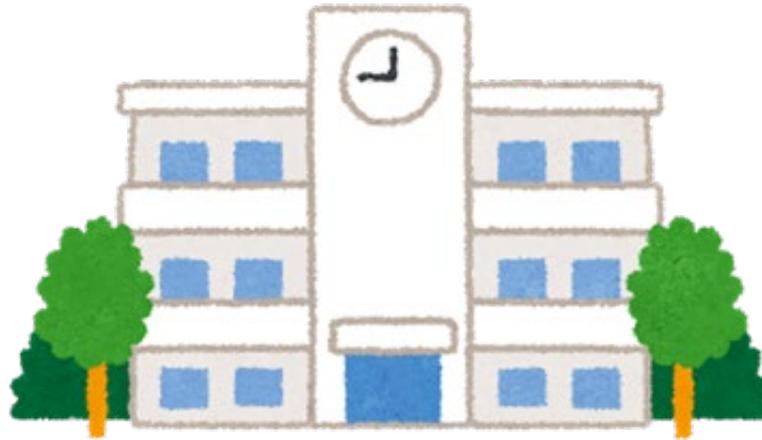
A：新しい学校の標準服等については、学校適正配置検討会議で標準服等の有無やデザイン等について意見交換して決めていきます。なお、学校再編に伴って標準服等のデザインが変更になり、買い替えが必要となった場合、保護者に過度の負担とならないよう、行政が負担します。ただし、新たな学校の開校年度に入学する生徒(開校年度に新1年生となる児童)の費用については、保護者の負担となります。

地域関係

Q：学校の再編に伴い、連合町会は改変されますか？

A：学校再編により、地域活動協議会や町会など地域コミュニティの単位を行政が変更することはありません。町会の設置及び廃止は、区地域振興会を経て市地域振興会の承認を受け決定されるもので、行政がその圏域に対して働きかけや改変を行うことはできないと考えています。

学校の跡地活用について



跡地活用の基本的な考え方

学校の跡地は、防災・地域コミュニティの拠点として売却せずに残し、地域のまちづくりに資する活用を行っていく

- 生野区西部地域は密集住宅市街地であり、学校は避難所等防災拠点として重要であること、また、地域活動が行われる地域コミュニティの拠点として重要であることから、生野区西部地域の学校再編により閉校する小学校跡地については、売却処分とせずに残し、防災・地域コミュニティの拠点としての機能を有することを前提に活用を行っていく。

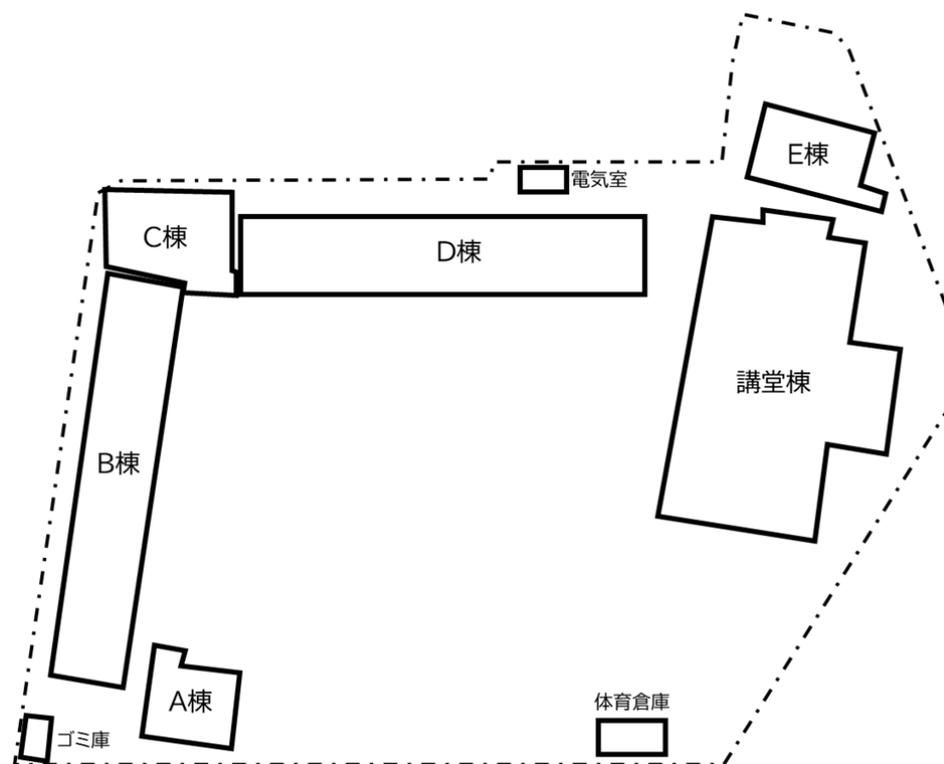
校舎等の状況

勝山小学校校舎は全般的に建築年が古く、講堂棟以外の活用が困難

※これまでの学校跡地活用におけるマーケットサウンディングでは、事業者の投資コスト回収の観点から20年間以上の長期賃貸借契約を望む意見が多くあります。

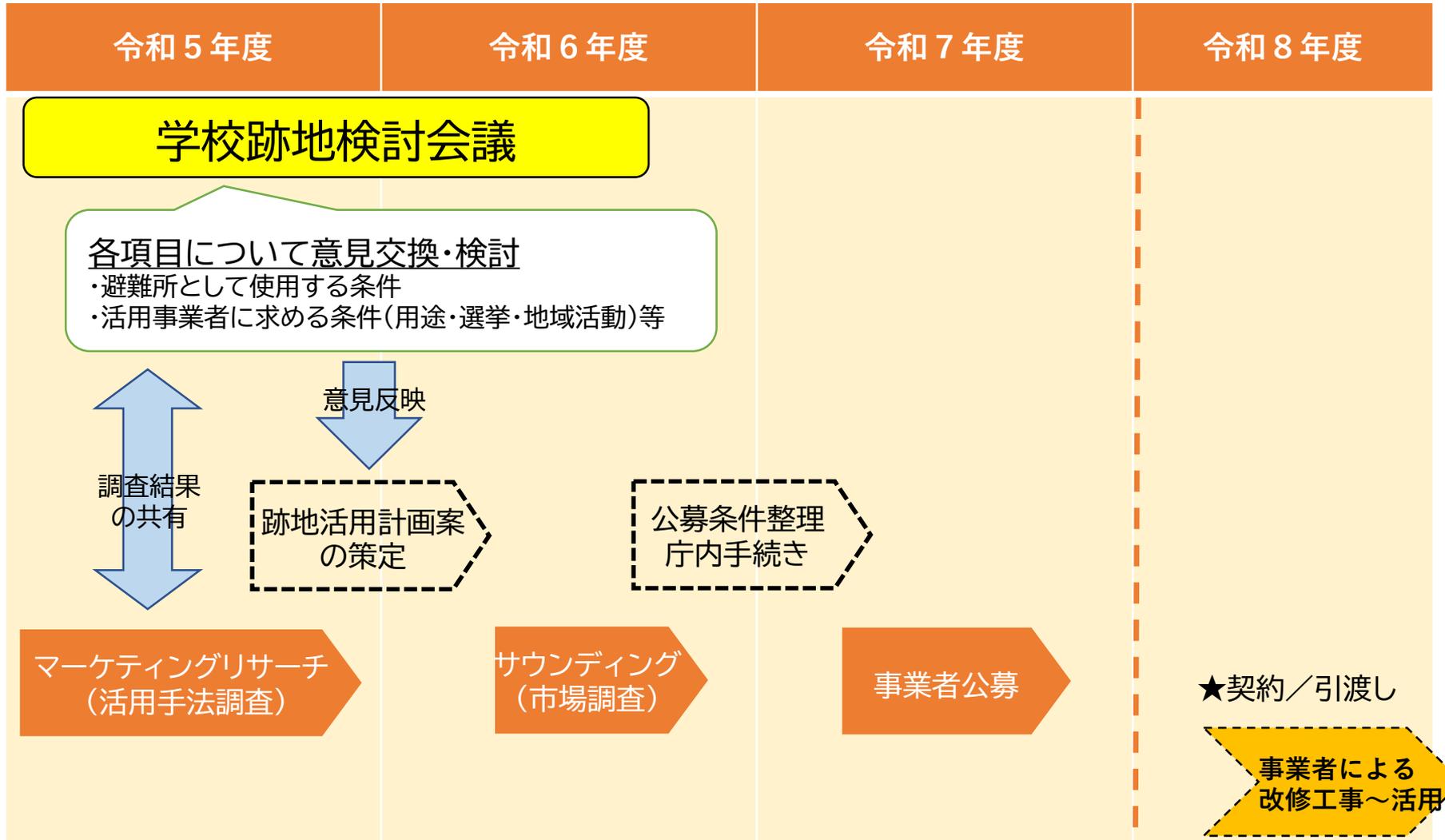
棟	構造	建築年	R8時点 経過年※
A棟	S造	S42年	59年
B棟	RC造	S33年	68年
C棟	RC造/S造	S52年	49年
D棟	RC造	S35年	66年
E棟	RC造	S38年	63年
講堂棟	RC造	S60年	41年

※仮にR8.4月再編とした場合



【参考:建築物の耐用年数の目安】RC造:60年 S造:50年

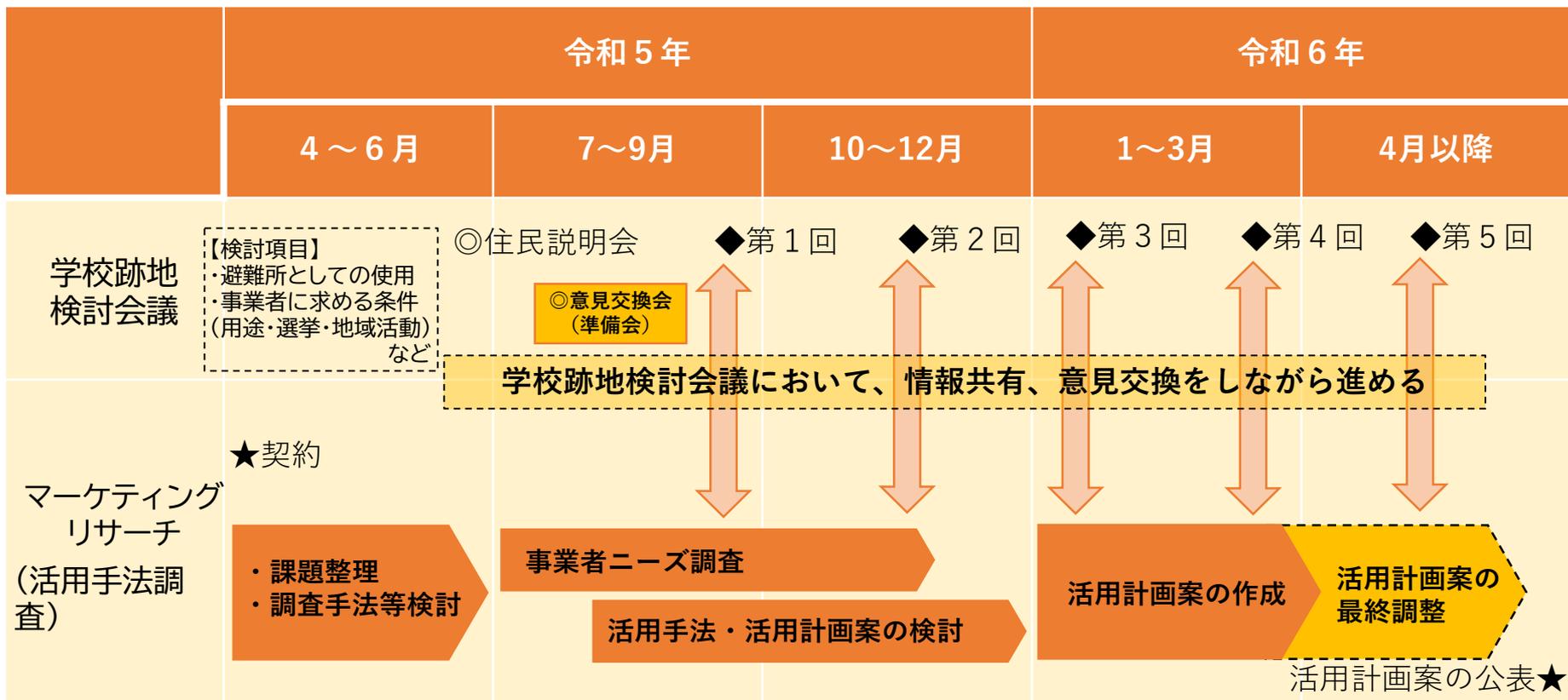
勝山小学校地の活用に向けた進め方



閉校予定

マーケティングリサーチ(活用手法調査)の進め方

土地、建物、立地等を考慮し、どのような活用手法が考えられるか、跡地活用の可能性のある関係事業者ヒアリング等による調査を行い、どのような条件であれば活用が可能か調査します。(委託先:株地域計画建築研究所)



活用計画案の公表に合わせ市場調査を実施

活用に向けた各種課題の整理

課題1 校舎の老朽化

- ✓ 既存建築物の活用可能性や活用上の制限を整理
- ✓ 老朽校舎を使用できない場合の、活用方法の検討
- ✓ 上記に関係する、建築基準法、都市計画法等の関係法令による制限の整理

課題2 防災上のリスク

- ✓ 生野区で最も地震被害が大きい「上町断層帯地震」をもとに避難所機能を想定
- ✓ 周辺施設を含めた避難所機能を検討し、勝山小学校地に求める避難所機能を検討

課題3 地域コミュニティ機能の継続

- ✓ これまで小学校が担ってきた地域コミュニティ機能について検証
- ✓ 本市事業（各種選挙や学校体育施設開放事業）による使用について整理



整理した課題をもとに、事業者ニーズ調査へ

勝山小学校跡地活用計画案の作成

事業者ニーズ調査の結果を、「(仮称)勝山小学校跡地検討会議」と共有し、様々な活用条件について意見交換を行いながら、「勝山小学校跡地活用計画(案)」を作成します。

活用計画案とは

学校跡地活用の基本的な考え方をまとめたもの
(活用計画案の記載項目)

- 施設概要
- 契約形態、運営スキーム
- 避難所機能の考え方
- 地域コミュニティ機能の考え方
- 事業者の活用に望むもの、望まないもの
- 活用にあたっての費用負担の考え方 など



令和6年度には

この「勝山小学校跡地活用計画(案)」をもとに、
生野区役所による、サウンディング型市場調査を実施。

活用事業者の公募へ

災害時避難所について

地区防災計画の見直し

- ・地区防災計画には、地域役員名簿、避難所の利用計画などが含まれているため、勝山小学校跡地活用計画（案）に沿った形で避難所利用計画（案）を作成し、地域役員、区役所で協議しながら随時見直しを図っていきます。

跡地活用事業者の工事中の対応

- ・生野未来学園（もと西生野小学校）、大阪偕星学園高等学校、プール学院のほか、勝山地域内や付近の施設へ避難所指定の協力依頼を行い、新たな避難所とするなどし、工事中の避難場所の確保に努めます。

お問い合わせ先

- 学校再編に関すること
地域まちづくり課（教育振興）
電話：06-6715-9920
メール：ikuno-edu@city.osaka.lg.jp
- 学校の跡地に関すること
地域まちづくり課（跡地）
電話：06-6715-9017
- 防災に関すること
地域まちづくり課（防災）
電話：06-6715-9022
メール：ikunoku-bousai@city.osaka.lg.jp